

半促成栽培きゅうりにおける天敵導入技術の実証

令和6年度作成
(試験実施：令和3年度～)

農場の概要

地域：小鹿野町 般若地区 対象作物：きゅうり

導入した資材等

・天敵農薬 スワルスキーカブリダニ

導入の目的・ねらい

パイプハウスで行われる半促成きゅうり栽培において、天敵農薬の活用によるアザミウマ類やコナジラミ類、それらが媒介するウイルス病の防除効果を検討する。

試験概要

試験区耕種概要

	加温ハウス（右図赤）	無加温ハウス（右図青）
面積	12a（7棟）	8a（3棟）
品種	ズバリ163	ズバリ163
定植日	令和6年2月22日	令和6年3月15日
天敵農薬放飼日	令和6年3月8日	令和6年4月9日
管理方法	選択性農薬の利用	選択性農薬の利用
その他	ハウス周辺に防草シート設置	ハウス周辺に防草シート設置

調査概要

- ・天敵の定着状況、害虫及びウイルス病の発生状況を調査
 - 加温ハウス：3棟を抽出し各棟10株ずつ調査
 - 無加温ハウス：各棟10株ずつ調査
- ・農薬散布回数、散布剤数を調査



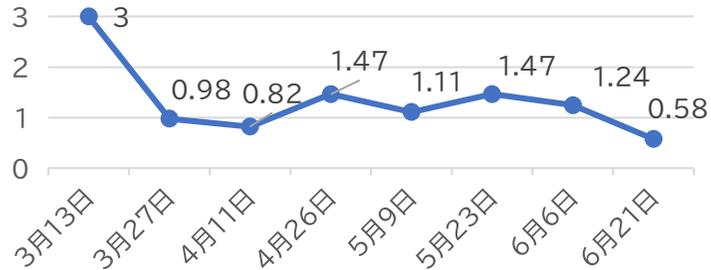
結果概要

- 天敵の定着と密度の維持を確認できた
 - アザミウマ類及びコナジラミ類はほとんど発生が見られず、低密度で推移した
 - ウイルス病の発生は確認されなかった
- ⇒パイプハウスの半促成栽培においても天敵の活用が可能であると確認できた

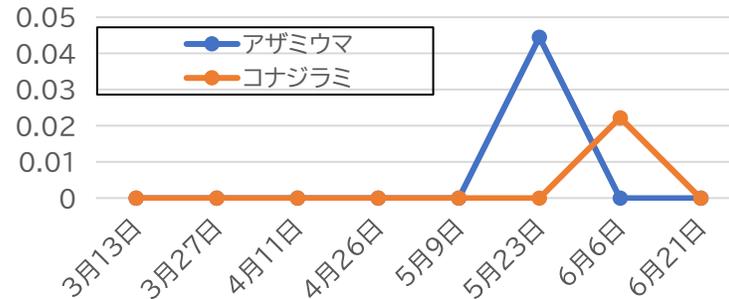


天敵農薬を放飼する生産者

天敵生息数（頭/葉）



アザミウマ・コナジラミ生息数（頭/葉）



加温ハウス結果

天敵生息数（頭/葉）



アザミウマ・コナジラミ生息数（頭/葉）



無加温ハウス結果

農薬使用状況	R5 (天敵放飼なし)	R6	削減率
薬剤散布回数	23	21	31%
使用薬剤合計	45	31	
うち殺虫剤	14	4	71%

生産者コメント

- 天敵の発生が少ない年ではあったが、かなり殺虫剤の使用回数を抑えることができた。
- 使用できる農薬に制限があることに不安があったが、効果的に病害虫を防除できた。
- 次作以降も引き続き、天敵農薬を利用した栽培に取り組んでいきたい

問合せ先

秩父農林振興センター
 農業支援部技術普及担当 電話 0494-25-1310
 管理部地域支援担当 電話 0494-24-7211